

令和8年8月3日

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)

営農情報 3

水稲・大豆作における高温乾燥対策について

本年は、梅雨明け以降、高温少雨で推移しており、九州北部地方の早期天候情報（令和8年7月30日福岡管区气象台発表）によると、向こう2週間の気温は暖かい空気に覆われやすいため、かなり高くなると見込まれています。このまま引き続き高温少雨で推移すると、農作物への影響が懸念されます。

このため、水稲作及び大豆作においては、下記の事項に留意した栽培管理をよりしくをお願いします。なお、炎天下での長時間作業を避けるとともに、こまめに水分と塩分を補給したり、休憩を取るなど熱中症対策を行ってください。

○ 水稲

【早期水稲】

- (1) 白未熟粒発生を防止し、粳の充実を高めるため、出穂後20日間は水を切らないように管理する。
- (2) 用水が有効に利用されるよう、ほ場の漏水防止対策に努める。
- (3) 登熟期の水管理は間断かん水を基本とし、早期の落水を避ける。

【普通期水稲】

- (1) 中干しはほ場表面が黒乾状態になる程度にとどめ、過度な中干しは避ける。
- (2) イネが最も水を必要とする穂ばらみ期～出穂開花期を中心に湛水管理を行う。
当期間に十分な水が確保されるよう、土地改良区や用水組合等で対策を講じる。
- (3) 用水が有効に利用されるよう、ほ場の漏水防止対策に努める。
- (4) 葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟が発生しやすくなるため、幼穂形成期頃に肥料切れが見られる場合には、出穂前10日頃までに穂肥を施用する。
- (5) 紋枯病やトビイロウンカ、斑点米カメムシ類は、高温により発生が増加するおそれがあるため、適期対策に努める。

○ 大豆

- (1) 出芽を確認したら、土壌の過乾燥を防止するため、本暗渠の栓を閉める。
- (2) 用水が十分確保されている地域では、土壌の乾燥が続く場合、中耕培土後畦間かん水を行う。日中は避け、夕方から行うのが望ましい。
- (3) 乾燥がひどい場合は、乾燥害を助長する恐れがあるため中耕培土は控える。

以上